

## 沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会議事要旨(平成17年度)

1. 開催日時 : 平成18年3月7日(火) 15:00 ~ 16:00

2. 場 所 : 沖縄総合事務局 4F 特別会議室

3. 出席者 : ○委員 池田 孝之 琉球大学工学部教授  
大城 常夫 琉球大学法文学部教授  
諸喜田茂充 琉球大学名誉教授  
津嘉山正光 琉球大学名誉教授  
仲里 全輝 沖縄県商工会議所連合会常任幹事  
(敬称略)五十音順

○総合事務局 佐藤開発建設部長、斉藤企画調整官 ほか

4. 事務局説明 :

平成17年度事業評価対象事業

平成17年度沖縄総合事務局事業評価関係適用通達

事業評価の費用便益分析に関する技術指針一覧

5. 「沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会運営要領」の一部改正について

委員会のスムーズな運営及び透明性向上の観点から、「委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。」を追加することで、了承を得た。

6. 事業評価監視委員会審議

○一般国道506号豊見城東道路(那覇空港自動車道)に係る事業再評価審議結果

・対応方針(原案)に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

(委員からの主な意見)

整備効果が高く、地域の期待も大きいことを踏まえ、早期に供用が開始されるよう事業の進捗を図られたい。

【審議内容】

(委員) 横断歩道橋の設置位置等の見直しによりコスト縮減を図るとあるが、当初横断歩道橋を設置する予定が一部を横断歩道に変更することで安全性は確保できるのか。

(事務局) 周辺の歩行者の横断状況を調査したところ特に必要性は認められなかったので、地元と調整した結果、一部を平面で設置するということで見直した。

(委員) トンネル構造及び施工方法の見直しによりコスト縮減を図るとあるが、具体的にどういことか。

(事務局) 以前は、トンネルを掘る際に先導坑を掘った上で徐々に広げていかなければならなかったが、新技術により一度で掘削することができるようになったため、工事費が削減された。

(委員) 早期建設に関する要望がいろいろ出ているようだが、事業進捗は遅れているのではないか。

(事務局) 遅れているわけではなく、限りある予算の中で着実に進捗している。一部の土地収用手続きに時間がかかったことも要因である。

(委員) 那覇空港南IC(仮称)から那覇空港までの道路整備はいつ頃具体化するのか。

(事務局) まだ都市計画決定がされていないので、今後関係機関と調整を進めていく。

#### ○一般国道329号金武バイパスに係る事業再評価審議結果

・対応方針(原案)に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

(委員からの主な意見)

事業の進捗を図られたい。

#### 【審議内容】

(委員) 全体の完成年度はいつ頃か。また、町道111号線(2工区)まではどれくらいかかるのか。

(事務局) 公共事業費削減という流れの中、予算が確保できるならば、約10年間で全線供用できる見込みである。2工区までは約5年程度かかると見込まれている。